

ふじやまこふん ながもちがたせっかん

# お富士山古墳と長持形石棺とその秘密

## お富士山古墳とは…

お富士山古墳とは、群馬県伊勢崎市にある前方後円墳です。一部、削られてしまっている部分がありますが、墳丘の全長が125mほどあり、その周りには堀がありました。現在でも古墳の形は荒れた様子も無く綺麗に留めています。

特徴として、横からみると三段に築かれていて、それぞれの段の表面に川原石が並べられています。また、古墳の頂上には富士神社と呼ばれている神社があり、その傍らには長持形石棺が置かれています。大型の円筒埴輪や、滑石で作られた刀子の模造品などが出土しており、出土遺跡物などから、築造年代は五世紀中頃だと推定されています。

尾崎喜左雄先生が率いる、群馬大学の古墳調査団によって、昭和38年に発掘されました。

→ お富士山古墳にある長持形石棺の写真



撮影：岡部 隼大

## 長持形石棺について…

石棺とは、かつてその地域を治めていた王や首長のための、石製の棺です。その中でも、この長持形石棺は、古墳時代の各地の王のなかでも、数えられる程少ない、大変大きな力を持った、最強クラスの王にしか作られなかった、というものです。

長持形石棺自体は、全国でも45例ほど、東日本では2例のみ知られており、数は非常に少ないです。また、その多くは、近畿地方の、ヤマト王権を代表するととても大きく、有名な古墳で占められています。

そのようなことから、このお富士山古墳には、ヤマト王権ととても強い政治的なつながりを持った、とても強い首長のための古墳であると考えられます。

この長持形石棺（左の写真）はお富士山古墳にあり、正式には「お富士山古墳所在長持形石棺」と呼ばれていて、江戸時代に書かれた書物や風土記にも記録されていたので、地元では昔から知られていたことがわかります。

このお富士山古墳にある長持形石棺なのですが、全長285cm、幅121cm、高さ115cm、重さ約6.8tもあります。また、一部の蓋石がなくなっていますが、それぞれの石がうまく組み合わさるための溝や段が掘られ、縄をかけるための突起も色々な場所に作られています。